

東日本 **APM** ニュース

ASSOCIATION OF PLASTICS MOLDERS, EAST JAPAN

第466号 2012. 6/10

社団法人 東日本プラスチック製品工業協会  
 東京都中央区築地3-12-5 築地小山ビル TEL 03(3541)4321  
 URL:http://www.ejp.or.jp FAX 03(3541)4324  
 発行人 高橋 廣

目 次	次
第44回通常総会開催される..... 1	事務局レポート (第44回通常総会議事録要約)..... 5
平成24・25年度 役員一覧..... 3	
エネルギー・ハーベスティング(四季)..... 4	事務局レポート (第321回理事会議事録要約)..... 6

## 第44回 通常総会が開催されました

～ 「山椒は小粒だが」 世界に挑戦できる会社を作って行こう ～



大野会長

平成24年5月24日(水) 青空と緑の上野の森、精養軒において当工業協会の第44回通常総会が開催されました。当日は、正会員、賛助会員の皆様はじめ大勢のご来賓、関連業界団体、技能検定及び教育訓練の先生方さらに

報道関係の皆様方に出席戴きました。

議案は以下の通りでした。

- 第1号議案 平成23年度 事業報告承認の件
- 第2号議案 平成23年度 決算報告承認の件
- 第3号議案 平成24年度 事業計画(案)審議の件
- 第4号議案 平成24年度 収支予算(案)審議の件
- 第5号議案 定款の一部変更の件
- 第6号議案 一般社団法人へ移行の件
- 第7号議案 役員改選の件

上記議案は、全て原案通り承認され、無事終了しました。

平成24年度の事業計画では、重点事業として、「①正会員並びに団体、賛助会員加入活動の展開、②能力開発・技能向上等教育事業の推進、③活性化を目指して支部活動の支え、④各種支援策に関する情報収集と発信、⑤一般社団法人への移行」を掲げ、注力する事としている。内容については、先般配布申し上げました第44回通常総会議案書を



総会会議場

ご覧下さい。

総会後開催された懇親会において、大野会長は以下の通りご挨拶を申し上げます。

「本日はお忙しいなか、当協会の総会並びに懇親会に、関東経済産業局の久世課長様はじめ業界関連団体及び会員各位皆様方の大勢の出席を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

昨年の5月に会長職をお引き受けいたしました時は、ちょうど東日本大震災から二か月経過した時期で、日本が混迷して方向性を失っている時でございました。

一年経ちました現在の日本は、大震災のキズあとからまだ立ち直っておりませんが、大震災の自粛ムードから消費自粛の反動が起きております。実質経済成長率が、前期比年率で4.1%になり、予想を上回る数字であります。成長率を押し上げたのは 個人消費・公共投資・輸出であります。日本経済が、着実に持ち直しているのは間違いのないと思います。上場企業の半数の52%が増益という数字にも裏づけされております。

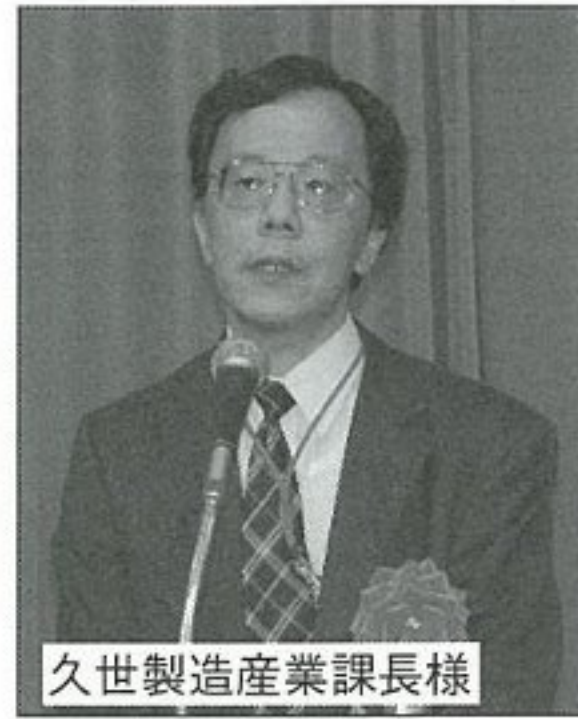
そのような日本の経済状況の中、会長として平成23年の重点事業を振り返ってみますと会員増強運動の展開につきましては、残念でございますが全体で1社の減少になりました。能力開発・技術向上等、教育事業の推進につきましては、各委員のご努力により、23年度は、22年度より多くの申請者が集まりましたが、技能士の合格者は残念ながら、若干減少いたしました。

活性化を目指して支部の統合と活動強化におきましては、墨東支部会を除いたすべての支部会に出席させてもらい、会員の皆様から 貴重なご意見を頂戴いたしました。ご意見が無駄にならないよう 協会運営に生かしていきたいと思っております。

プラスチック製品業界のPR地位向上を図るにおきましては 全日本プラスチック製品工業連合会としてですが、10月のIPF展示会にブースでの出展を果たし、PR活動に努めました。震災関連の支援・施策情報の取得と紹介につきましては、被災した会社及び福島県プラスチック工業会に対して、お見舞金を出させていただきました。

最後になりましたが、当プラスチック製品製造業界におきましては、円高・電力危機・財政再建・デフレ脱却とまだまだ厳しい状況が続きます。企業の自助努力で収益性を高める事業構造の転換と新興国市場の取り込みを行い、「山椒は小粒だが」世界に挑戦できる会社を作って行こうではありませんか。

夢を実現できる工業会にするためにも、本日ご列席の皆様方のご支援・ご協力を重ねてお願い申し上げます。私のご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。」



久世製造産業課長様

ご来賓からは、代表して関東経済産業局・製造産業課長の久世尚史様より、お祝いと激励さらに24年度施策等について下記のご挨拶を戴きました。

「本日は、貴協会の通常総会が滞りなく開催されましたことを心からお

喜び申し上げます。また、協会の皆様方には、日頃から能力開発、技術・技能の育成、業界全体の景況感・業況感の調査など、様々な活動を通じて、業界全体の発展に貢献されてきていると伺っております。これも大野会長をはじめ役員の方々、会員の皆様方のご尽力とご労苦の賜と敬意を表する次第です。

さて、景気の方も東日本大震災以降、1年余が経過し、明るい兆しが見えているとは言え、依然として、昨夏以降の円高基調は変わりませんし、これに伴う産業空洞化の懸念、原油高、欧州債務危機の再燃の恐れなど厳しい状況が続いています。また、5月の連休中には、茨城県・栃木県を中心に竜巻の被害が発生しました。被害に遭われた方には心からお見舞いを申し上げます。こうした経済社会情勢のもと、今年度、当局といたしましても、様々な支援策を動員し、皆様方の事業のお手伝いをして参ることとしております。まず、産業空洞化に対しては、サプライチェーン上で重要な位置を占める企業、将来の成長産業を担う企業などの国内における設備投資を応援していきます。昨年度の第3次補正予算におきまして「国内企業立地推進補助事業」として約3000億円を計上し、現在までに約2000億円を交付決定しました。引き続き第2次公募を実施しておりますが、今後、これらの施策が呼び水となって、広く設備投資、需要創出、雇用創出などの経済効果が地域経済に波及していくことを期待しております。

また、何と言っても、日本のものづくりの強みの源泉は、皆様方中小企業の方々が持つておられる基盤技術にあると思っております。こうした中小企業が持つていた優れた基盤技術をさらに磨くことにより、円高に負けない技術・経営体質を造っていくことも重要と考えています。平成24年度も引き

続き「戦略的基盤技術高度化支援事業(132億)」をもって中小企業の皆様の技術開発を支援してまいります。

さらには、中小企業の皆様も、今後、国内マーケットが長期的に縮小していくなかで、海外をも意識して事業展開を進めて行く必要があるかと思えます。当局では、中小企業が海外マーケットを視野に入れ、技術漏洩対策を講じつつ新たな技術開発を行う際の支援として、今年度から「グローバル技術連携支援事業(6億円)」を開始いたしました。

私どもとしては、このような支援策を積極的にご活用頂き、皆様方の事業にとって少しでもお役に立てることが出来れば幸いです。

最後になりますが、今年度の総会を契機にますます貴協会の組織・活動が充実・強化し、業界全体の発展、個々の会員企業の業績向上に資することをお祈り申し上げて、挨拶に代えさせていただきます



乾杯をする飯高会長



中締めは佐藤副会長

す。本日は有り難うございました」

続いて、社団法人神奈川県プラスチック工業会飯高章裕会長の乾杯の発声により祝宴が始まりました。

参加者は、昨年より多くの出席者に出席を戴き、あちらこちらに情報交換の輪が出来ました。18時20分、佐藤副会長の中締めの挨拶と三本締めでお開きとなりました。

## 社団法人東日本プラスチック製品工業協会 平成24・25年度 役員一覧

(敬称略、順不同)

役職	氏名	会社名	役職	氏名	会社名
会長	大野 泰昭	株式会社 石黒製作所	理事	長島 勝敏	株式会社 千葉工業所
副会長	大井 英一	株式会社 大井製作所	々	齋藤 森作	株式会社 荒川樹脂
々	大塚 一郎	大塚産業株式会社	々	滝口 裕	株式会社 滝口製作所
々	佐藤 昭	株式会社 サトーゴーセー	々	飯高 一郎	大和化学工業株式会社
専務理事	高橋 廣	東日本プラ工業協会	々	福田 晴通	旭モールドィング株式会社
理事	池下 龍	不二プラスチック株式会社	々	肥後 武重	株式会社 リーデンス
々	鈴木 幸雄	五合化学株式会社	々	腰越 稔	協和精工株式会社
々	竹下 富男	日本ビニロン株式会社	々	小松 幹也	株式会社 日新化成
々	安達 七郎	石田プレス工業株式会社	々	関根 忠	株式会社 ミクロ精工
々	川野 幸博	川澄化学工業株式会社	々	檜山 徹	長野県プラ工業会
々	嶋田 修二	浅間合成株式会社	々	小林 輝男	群馬県プラ工業振興協会
々	内藤 隆夫	平和工業株式会社	々	武田 久徳	茨城県プラ振興会
々	山下慎一郎	山下電気株式会社	々	井口 孝司	新潟県プラ工業振興会
々	白石 恵一	白石工業株式会社	々	池添 亮	栃木県プラ工業振興会
々	平塚 隆文	株式会社 三光社			
々	曾我部 上	株式会社 新上	監事	古澤 正弘	株式会社 プルプラ
々	大川 哲郎	大東プラスチック工業株式会社	々	五十嵐貞行	株式会社 イガラシコーカ
々	上村 俊彦	かみむら化学株式会社	々	谷 和雄	有限会社 大里化工

## エネルギー・ハーベスティング (四季)

究極の節電技術と言えるエネルギー・ハーベスティング (Energy Harvesting 環境発電) が注目されている。節電とは言っても冷暖房や照明の節電ではなく、桁違いに微少な電力の有効活用である。

### 1. エネルギー・ハーベスティングの狙い：

最大のメリットは電池や電力線が不要となるワイヤレス化、電池交換や充電不要のメンテナンスフリー化、それにとともなうトータルコストダウンである。

エネルギー源としては、太陽光、照明光、風力、雨、機械的な変位 (人がボタンを押す等)、機械振動 (橋梁や交通機関の揺れ)、熱 (工業プラント配管の熱、人の体温、地上と地下の温度差)、電磁波 (テレビ・携帯電話等の電波)、等が利用される。

### 2. エネルギー・ハーベスティングの歴史：

受信した電波のエネルギーにより音が出る鉱石ラジオ、ソーラー電卓、ソーラー腕時計、は古くから見られるエネルギー・ハーベスティングの例である。

近年では米国などで軍事・宇宙開発の支援から研究が始まり、昨今はセンサーネットワークのエネルギー課題を解決する“究極のグリーン技術”としてICT (情報通信) 業界が注目している。

### 3. エネルギー・ハーベスティングの応用分野：

- \* センサーネットワーク…気象観測、農業センサー、防災・森林火災モニター、
- \* 構造物寿命予測、…定期メンテナンスから必要事態発生 (予測) 時メンテナンスへ省力化、
- \* ヘルスモニタリング…心拍数、血糖値、等を常時計測して携帯端末にデータ送信、
- \* 自動車タイヤ空気圧センサー (走行中連続測定) …安全確保、燃費向上、
- \* 自動車内各種センサ信号用ワイヤーハーネス削減による軽量化で燃費向上、
- \* 電池不要リモコン (テレビ、エアコン、照明)
- \* 電波エネルギーで発電し携帯電話の充電補助、

### 4. 構成要素：

- \* 発電素子；圧力・振動ではピエゾキャパシタ、機械的変位ではスイッチを押す圧力を電磁誘導で電力に変換、光では太陽電池、熱ではゼー

ベック効果、等、

- \* 電源管理回路；発電素子の電圧を各構成要素が高効良く働く様に昇圧・降圧・安定化する、
- \* 蓄電池；断続的発電において電力を平準化する、
- \* センサー；振動、温度、圧力、変位等の検出、
- \* 無線回路；測定データを無線にして送信する、
- \* マイコン；上記の各要素機器を制御する、

### 5. なぜ今注目されるのか：

- \* 発電素子の性能が向上しエネルギー変換効率が向上した、
  - \* センサ、電源管理、マイコン、無線回路、等の周辺部品の低消費電力化が進んだ、
  - \* 蓄電池の性能・安定性が向上した、
- 以上により発電量が周辺部品の消費電力を上回り、実用化の目安である数年以上に渡りメンテナンス無しに安定作動させることが可能となった。

### 6. 市場規模：

応用製品を含まないコアとなるテクノロジー単体金額規模で、2011年5億100万ドルから2018年51億ドル (2011.11月 ウィンターグリーン・リサーチ)、また関連機器を含む市場規模では2010年6億500万ドルから2020年44億ドル (Dr. Peter Harrop and Raghu Das, “Energy Harvesting and Storage for Electronic Devices 2010-2020” ,ID TechEx Ltd, July 2010) に成長との予測がある。

### 7. 世界の状況・日本の状況：

EnOcean GmbHの取組が世界的に先行しており、200のメンバー企業がアライアンスを組み、750の最終製品を市場に投入している。

日本は10年遅れていると言われ、2010年5月に関連企業13社でエネルギーハーベスティングコンソーシアムを立ち上げたところである。(2011年8月時点で45社が加盟) 日本が遅れた要因は発電素子開発に拘って、最終製品を見据えた技術開発、および事業化への戦略的取組が進まなかったとされている。一方、自動車業界とエレクトロニクス業界が連携して2012年10月に開催するアジア最大級の最先端IT・エレクトロニクス総合展示会“CEATEC JAPAN”では集中展示とセミナーが開催される予定である。

(案山子)

## 事務局レポート

### ■第44回通常総会 議事録要約

1. 日 時 平成24年5月24日(水)  
16時00分～16時55分
2. 場 所 上野精養軒 3階 桜の間  
東京都台東区上野公園4番58号

#### 3. 出席者

出席正会員 131名 (うち委任状 78名)  
正会員総数 191名

定刻、大塚副会長の司会により、社団法人東日本プラスチック製品工業協会第44回通常総会の開会が宣言され、大野会長の挨拶につづいて、司会より本総会の出席会員は定足数の過半数を超えており(69%)、定款第28条の規定により本会が有効に成立している旨の報告がなされた。次に、定款第27条の規定により会長が本総会の議長の任に当たる旨を説明し、異議なく全会一致で承認された後、会長が議長席に就いた。

#### 4. 議事録署名人選出

議長より議事録署名人の選出を諮ったところ、議長一任となり下記の両氏を指名し両人もこれを了承した。

議事録署名人 有賀工業(株) 有賀陽一 様  
〃 福島化成工業(株) 福島啓之 様

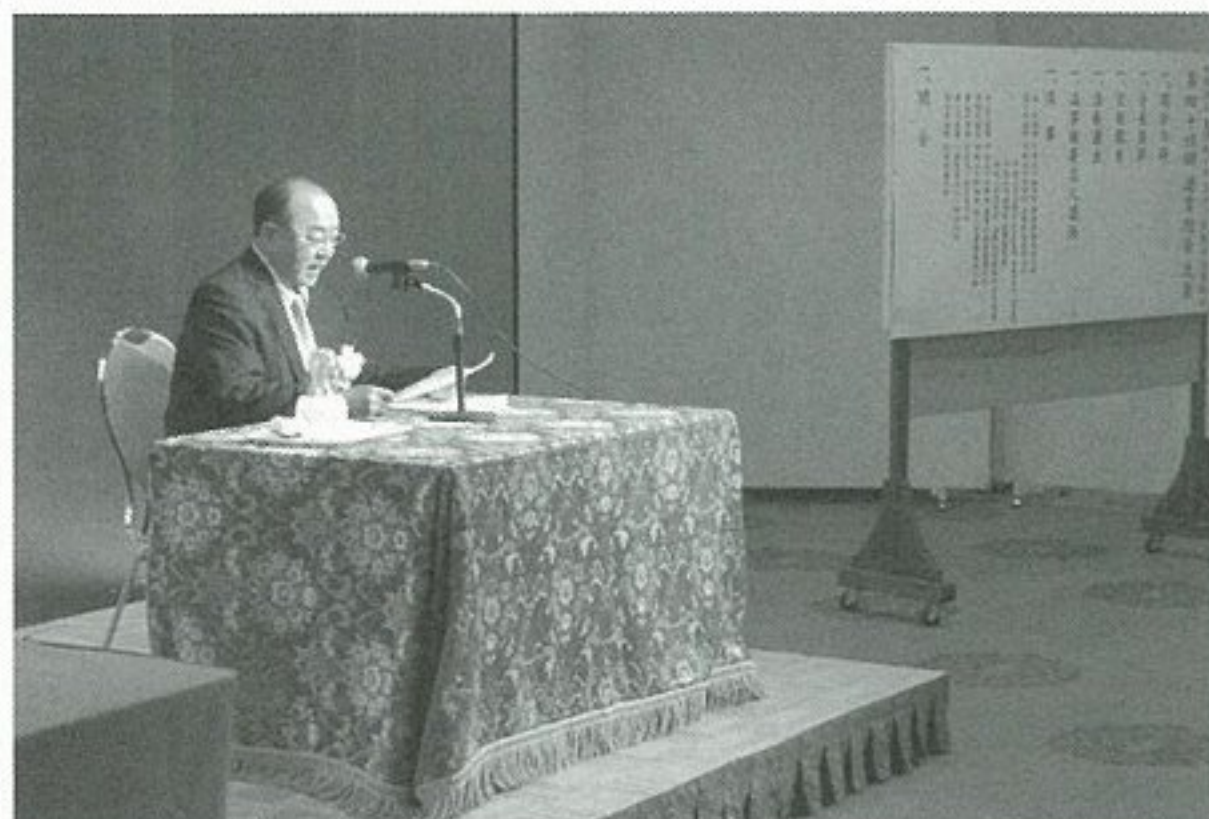
#### 5. 議 事

第1号議案 平成23年度事業報告承認の件

第2号議案 平成23年度決算報告承認の件

議長より、第1号、第2号議案は関連があることから一括して説明をお願いしたい旨を議場に諮り、了承を得た。大井副会長より、総会資料に基づいて、会員の状況ならびに会議の開催、個別事業についての報告と支部会開催状況等の報告をし、さらに平成23年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表等について説明をした。

続いて、古澤政弘監事が以下のとおり監査意見を述べた。「去る5月18日、当工業協会事務所にて平成23年度事業報告書、貸借対照表およ



び収支計算書を監査した結果、適正な処理が行われており、相違ない」旨

議長より、第1号、2号議案の承認可否について、議場に諮ったところ異議なく全会一致で承認された。

さらに、平成23年度当期収支差額、金6,839,904円の処分方法は、全額を次期繰越収支差額として処分することについて議場に諮ったところ、異議なく承認された。

第3号議案 平成24年度事業計画(案)審議の件

第4号議案 平成24年度収支予算(案)審議の件

議長は、第3号、第4号議案について、関連があることから一括して説明をお願いする旨の了承を得た後、大井副会長より以下のとおり説明した。

平成24年度の事業活動方針は、「米国では輸出の増加が景気を支えるほか、雇用も緩やかながら増勢が続くことから回復の兆しが見えている。しかし、欧州では債務問題が未だ収まらず緊縮財政、雇用の悪化から景気は水面下にある。中国をはじめアジアの新興国は、欧州の後退を受け、景気は減速の見通しにある。我が国でもそれら世界の動きの中にあって、東北地方の震災復興やタイ洪水からの立直りで少し明るさが見えるものの、樹脂材料価格の上昇、円高水準の継続並びに電力料金の大幅アップ等プラスチック製品製造業界における中小企業を取巻く状況は引続き厳しい。

平成24年度は諸事業の運営にあたり、会員の総意を結集して的確な事業の実施により設立目的の実現に向けて努力していく」旨を述べ、平

成24年度の5つの重点事業を説明した。

続いて平成24年度収支予算案の事業総額、53,885,400円の内訳について

総会資料に基づき一般会計の大科目毎に説明した。また、科目の詳細と部会別会計(部会・委員会)については、ご一読願うことで了承を得た。

議長より、第3、第4号議案の可否を議場に諮ったところ、原案通り全会一致で承認された。

第5号議案 定款の一部変更の件

第6号議案 一般社団法人へ移行の件

議長は、第5号、第6号議案について、関連があることから一括して説明をお願いする旨の了承を得た後、大井副会長より以下のとおり説明した。

第5号議案は、理事定数の変更であり、一般社団法人へ移行した場合、今までのように代理人による議決権の行使等は認められず、各社団法人とも現在、理事の出席率の向上に取り組んでいるところ。当協会でも、移行を前提に、理事会に出席戴ける方を中心に選出すべく、理事定数を(絞り込んで)変更するものである。

第6号議案は一般社団法人へ移行の件であり、現在の社団法人は、平成25年11月までに、一般社団法人もしくは公益社団法人どちらかを選択して、移行する必要がある。どちらにすべきかについては、今まで理事会で審議してきた。その結果、税金面のメリットは小さくなるが、会員のための事業を行えるという面では、一般社団法人へ移行する方が得策であるとの結論に達し、今回提案するもの。なお、他地区協会も同じように「一般社団法人」を目指して、手続きを進めているところである。また、今後の手続きとして、時期的には、8、9月頃に、一般社団法人の定款と移行申請書類がそろった段階で、臨時総会を開き、申請の承認を戴く必要があり、その際は再度各位の協力をお願いしたい旨。

議長より、第5、第6号議案の可否を議場に諮ったところ、原案通り全会一致で承認された。

第7号議案 役員改選の件

議長より、通常総会の終了をもって任期満了となる現役員の改選について、昨年秋より大塚副会長を委員長として役員選衡委員会を2回開

催した。その結果を4月19日開催の理事会に諮り、その承認を戴き、今総会に上程するもの。新役員候補者は議案書42ページ一覧表のとおりである旨を述べる。

議長より、第7号議案について議場に諮ったところ、異議なく全会一致で承認された。

ここで議長より、別室(菊の間)において、新役員による新執行部を選出するための理事会を開催するため、本総会を一時休憩(約10分間)し、総会の再開は16時50分とする旨宣した。

16時50分再開。

議長から、先程、別室で第322回理事会を開いたところ、引き続き現執行部(三役)は下記の通り、留任ということが決まった旨を報告した。

会 長：大野 泰昭 氏

副 会 長：大井 英一 氏

々 大塚 一郎 氏

々 佐藤 昭 氏

専務理事 高橋 廣 氏

大野会長からは、平成24,25年度の執行について、微力ですが精一杯尽くしたく何卒よろしく御協力のほどをお願いしたい旨との挨拶がなされた。

以上をもって16時55分、議長は、第44回の通常総会の閉会を宣した

## ■第321回理事会 議事録

1. 日 時 平成24年5月24日(木)  
15時00分～15時35分

2. 場 所 上野精養軒 3階「菊の間」  
東京都台東区上野公園4-58  
電話 03-3821-2181

### 3. 出席者

大野 泰昭	大井 英一	大塚 一郎
佐藤 昭	齋藤 森作	鈴木 幸雄
竹下 富男	安達 七郎	川野 幸博
嶋田 修二	内藤 隆夫	白石 恵一
平塚 隆文	曾我部 上	大川 哲郎
上村 俊彦	谷 和雄	滝口 裕
飯高 一郎	植田 好司	肥後 武重
腰越 稔	小松 幹也	檜山 徹
森下 誠一	武田 久徳	井口 孝司
柴 孝幸	竹内 友義	高橋 廣



以上出席30名、委任7名 計37名  
(理事総数38名)

古澤 政弘 井上 雅博 (以上監事2名)

#### 4. 会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。第44回通常総会前の理事会を開催いたします。今週月曜日の金環日食は、天気にも恵まれよく見ることができました。東京でみられるのは173年ぶりだそうで、前は1839年江戸時代の天保年間だったそうです。

また、スカイツリーが5月22日に開業しました。連日大賑わいのようです。東武鉄道の連結営業利益ベースで、3年間で100億円押し上げるそうです。開業後1年間で540万人の入場者を見込み、周辺の商業施設を含めると3200万人の来場数を見込んでいるそうです。東京ディズニーリゾート級の集客を目指す大型複合施設は、個人消費の押し上げ効果が年間約800億円との試算もあるそうです。驚くばかりです。

詳しい挨拶は、総会後の懇親会で申し上げ、本日は、短時間の理事会ですが審議への協力をお願いし挨拶とした。

#### 5. 議事録署名人

議長は、定款第31条2項により、嶋田修二理事、曾我部上理事を議事録署名人に指名し、了承された。

#### 6. 議事

##### 議題1. 経過報告

##### (1) 役員会等の開催

4月19日 第320回理事会  
東日本年金基金会館  
5月17,18日 平成23年度決算監査  
東日本協会 会議室

##### (2) 部会・委員会の開催

##### ① 能力開発推進委員会

4月19~22日 新入社員教育講座  
(学科、実技) 板橋校  
4月25日 役員会 東日本協会 会議室  
5月11日 新入社員教育講座(計測コース)  
ミットヨ計測学院

##### ② 製品技術部会

4月23日 総会 八重洲富士屋ホテル

##### ③ 技能検定運営委員会

4月25日 役員会 東日本協会 会議室

##### ④ 青年経営研究会

4月27日 総会・役員会 南国酒家

##### ⑤ 技能士会

5月12日 総会 板橋校

##### (3) 協同組合

4月19日 第9回通常総会  
東日本年金基金会館

##### 議題2. 第43回通常総会 役割分担等の件

配布資料(スケジュール・役割分担案、総会出席者一覧)及び総会議案書<第1号議案~第7号議案>についてその概略を説明した。さらに、総会の中で開催する第322回理事会は、第7号議案・役員改選の件が終了後、総会を一時中断(10分間の休憩)し、別室「菊の間」にて新理事により開催。主要議題は、会長、副会長、専務理事の3役等を選出することで、その後、総会議場に戻って、総会を再開し、選出された新会長がその経緯を説明の上、執行部を紹介し、予定の議案が終了、閉会する段取りである旨。

##### (その他報告・連絡事項)

日時：平成24年6月7日(木)15時~

会場：ヒルトン大阪 大阪市北区梅田1-8-8

JR大阪駅 徒歩5分

連合会役員：理事、総会代表

※翌8日→懇親ゴルフ(飛鳥CC、奈良市)

- ・次回の東日本理事会開催について  
納涼会を兼ねた下記第323回理事会  
平成24年7月12日(木)16時~17時  
理事会終了後、納涼会を開催  
会場：八重洲富士屋ホテル  
会費：1万円

以上をもって、第321回理事会における審議を終了し、議長は15時35分、理事会の閉会を宣した。